

古堅良雄

ギターリサイタル



ナレーター・宮 平 八 重 子
 曲目解説・親 富 祖 徳 盛
 後 援・沖縄ギター音楽協会
 ・琉球新報・極東放送
 と き・6月2日(水)・7時
 と こ ろ・新 報 ホ ー ル



●演奏者の挨拶

本日の演奏会でギターを通じ再び皆様との素晴らしい（無言の）会話ができる事を期待して居ります。

好きだというだけで手にしたギターとの出逢いでしたが、以来20数年、本当にギターを愛することのみに生きて来た自分をふり返り、今更の如く、ギターの持つ底知れぬ深淵に立たされた思いで心をふるわされて居ります。

惑る人の言葉に「ギターは一曲を完全に弾ければ良い!」と言われて居りますが、全く名言だと思います。すでに皆様も経験されたと思いますが、一曲を仕上げるまでの努力と忍耐は大変なものであります。その様な次第でありますので、私もこれからますます本当の意味でのギター馬鹿に徹して行きたいと思って居ります。

1971年6月2日

古 堅 良 雄



ギター喫茶

い ず み

毎晩8時よりギター演奏を致しております

国際中央通り(いずみ写真館地下) TEL. 34-3677

●プログラム

第 1 部

- 二つのメヌエット……………ラモー (初 演)
プレリュード……………バイス (初 演)
エチュード第12番……………アグアト (初 演)
モーツアルト (魔笛) の主題による変奏曲……………ソ ル (初 演)

第 2 部

- プレリュード第5番……………タルンガ (初 演)
パバーナ……………〃 (初 演)
スペインセレナーデ……………〃
アデリータ……………〃
アルハンブラの思い出……………〃

第 3 部

- 前奏曲第一番……………ビイラロボス
熊ん蜂……………プホール
アメリヤの遺言……………リョベート
インカ幻想曲……………サビカス
泊り船……………宮 良 長 包

愛好者募集!!

古堅良雄 ギター研究所

——初心者より……専門課程まで——

○所・中の橋バス停 (仲地外科向い)
高橋アパート・2 階・
○TEL. 55-8808

二つのメヌエット ラモー・ジャン・フィリップ(1683~1764年)

1983年フランスに生れる。教会のオルガン奏者であった父より音楽を学んだ、小都市デ
イジョンには作曲の先生がいなかったので和声と作曲を独学した。19才の頃から各地のオ
ルガニストを務めた。現在音楽一般の通念になっている和音に対する考え方の基礎と和声
学に対する学び方の基礎を作った。和声学を書いたのは39才の時で、40才の頃から舞台音
楽を書き始め、最初のオペラを書いたのが50才のときであった。その後たくさんのオペラ、
バレエ、クラブサン曲、室内楽、歌曲などの作品を書いているラモーが作曲家として知ら
れるようになったのは晩年であったと言われる。

プレリュード バイス・シルビウス・レオポルト(1986~1750年)

バイスは子供の頃、音楽家であった父より、リュートの手ほどきを受け、20才の時デュ
ッセルドルフの宮延にリュート奏者として迎えられ、その後ローマや、ウィーン演奏旅行
したりして次第にその名声を上げていった。

バイスは当時の最も優れたリュート奏者と言われ、特に即興演奏を得意として、多くの
楽人達を驚かせたと言われている。バイスが活動した18世紀初頭は、後期バロック時代で
バッハやヘンデルの活躍した、音楽の爛熟期で、バイス以後、リュートは次第に衰退する
バイスは、そのリュートの最後の巨匠といえる。現在、その多くの作品はギターに編曲さ
れて演奏されている。

エチュード第12番 アグアド・デイオニシオ(1784~1849年)

アグアドはスペインのマドリッドに生れる。パガニーニやソルと親交を結び研究をしあ
い、より価値のある音楽創造に努力した。パリでは同じ家に住み、お互いは深い尊敬で結ば
れた。ソルは右指を爪をのばさない演奏法、アグアドは爪をのばす演奏法で、ソルは爪を
嫌ったがアグアドは例外であるとはめたと言う。アグアドは三脚台を作り、ギターをそれ
に架して演奏した。アグアドは教本でも有名である。セゴビアは、この数本は演奏家の再
勉のためによいと書いている。

ヤマハギター

レコード部新設!



- ・クラシックギター
- ・フォークギター
- ・エレキギター

- ・ジャズ・ポピュラー
- ・歌謡曲・クラシック

その他各種レコードを取り
そろえてあります。

牧志バス停前

文教楽器牧志店

TEL.34-6055

モーツァルト(魔笛)の主題による変奏曲 ソル・ナンド(1978~1879年)

ソルは5才の頃から既に小曲を作り、この早熟な才能を知った両親や周囲の者は彼をモンセラのベネディクト会修道院に入れて、厳格な音楽の基礎教育を受けさせた。彼が才能に加えて若くして十分な基礎教育を受けたところに、他の多くのギタリストと異なった出発があった。学校生活を終えモンセラを去り、バルセローナで最初のオペラが上演されたのは19才の時で、以後劇場音楽(オペラ、バレエ)、シンフォニー、弦楽四重奏曲、聖母祝讃歌、スペイン歌謡の創作活動が行なわれたのである。ギターに強い関心が持たれたのはバルセローナに戻ってモレッティのギター曲に深く影響されてからと言われる。その後、ソルは音楽の根本的法則に立脚してギターの特性の許す限り、それらをあてはめようとした。そして同時代の音楽家と異なった多音楽様式によって作曲した。ソルの作品は真にギター音楽の作曲家と言う意味で(ギターのベートウヴェン)だとフェステスはたたえている。同時代にジュリアーニやアグアド、ナポレオン、コステがいるが、ジュリアーニとの間には芸術上の暗黙の斗争があった話は有名である。ソルは始めてギター教則本を書いた人で、現在もなお教材としてソルの作品が主体になっている。

アルハンブラの思い出 ターレガ・フランシスコ(1852~1909年)

タルレガは幼時から視力が弱かったため、両親は早くから音楽を学ばせた。はじめ町の音楽家からピアノとギターを習得したが、名手アルカスの演奏を聞き大きな感銘を受けた。ボヘミア的な放浪生活をまじえながら、ピアノとギターの勉強を続けた。生活のためカフェのピアニストをつとめた。やがて彼はギター愛好家の富裕な商人カネサの庇護を得た。この人によって、19世紀最大のギター製作家、アントニオ・キーレスに紹介され、ギターを贈られた。同じくカネサの援助のもとに、マドリッド音楽院に入学した。ここでバイオリン、ピアノ、和声学その他音楽を学んだ。卒業後ギター1本にしぼられた。独奏家としての名声、1870年代を通じて次第に高まり、当時のスペインの若手人気ピアニスト、アルベニスとバルセローナでジョイント・リサイタルを行なっている。パリやロンドンまで足をのばし、帰国後バルセローナに定住し、古典時代以後、現代に続くギター全盛時代の基盤を作った。近代ギター音楽の父とよばれている大家も晩年は経済的に恵まれず、淋しく貧困の内に死去した。タルレガの芸術と精神はリヨベットやプホールに受けつがれ、ギター音楽の真髄として伝えられている。

肖像

トテモヨク似セル 沖縄最高

風景

スバラシイ油絵が市価ノ半値以下、常に300点展示

額縁

彫刻・額・其ノ他各種

比 嘉 画 廊

那覇市泊高橋北一号線通り TEL.68-6521

前奏曲第一番 ビラーロボス・エイトル (1887～1959)

1887年ブラジルに生れる。歴史家、かつアマチュア音楽家であった父が、幼時から彼にチェロとクラリネットを教える。彼は天分を示し、15才でオーケストラのチェロ奏者になったが、ギターも深く彼をとらえた。その後、国立音楽研究所に入学、ブラジル各地の民族音楽の調査研究をした後、パリに留学、ヨーロッパ各地を訪門し、帰国後、指揮者、作曲家として活躍、交響曲、バレエ、交響詩、弦楽四重奏など、音楽では(チョロ)(前奏曲)(エチュード)協奏曲など多くの作品がある。彼と親交のあったセゴビアは(練習曲集)をスカルラッティやショパンのそれに比し、また贈られた(協奏曲)の初演をつとめた。

熊 人 蜂 プホル・エミリオ (1886～)

プホルは、スペインに生れ、バルセローナで音楽を学ぶ。少年時代タルレガの芸術と人柄に接して深い影響を受けた事が、彼の一生を決定したといわれる。ターレガが晩年に到達した指頭による弾弦方を今日なお守り続けていることもその一端である。プホルは今世紀の初めからギターリストとして活躍し、ときには夫人(故)フラメンコ、ギター奏者と共に各地に演奏旅行もはたした。一方、ヨーロッパ各地の古文書、楽譜のくわしい研究を行なった。作曲家としても、師ターレガゆづりの繊細でおだやかな作品を発表してきた。編曲者として、前古典の作品を紹介した。現在これらの作品は重要なギターのレパートリーになっている。現在ターレガの直系を継ぐ人としてギター界に重じられている。

アメリカの遺言 リヨベート・ミゲル (1878～1938年)

バルセローナに生れたリヨベートは幼い頃から音楽に親しむ機会が多かったという。父親が彫刻家であったため、美術にも早くから才能を示した。バルセローナ音楽院で音楽を学ぶ。ここでは世紀の巨匠と言われる、チェロのカザルスと同窓であった。この頃マヒンアレグレにギターを師事したが、楽器店でターレガとの出会いにより、すぐターレガの門下に入った。1901年に初リサイタルを開き、ヨーロッパ各地を演奏旅行し名声を得た。パリでは当時有名な芸術家と知りあいになり、たとえばアルベニス、ラベル、ドビュッシなどから賞讃を得ている。芸術家、教授家としても成功し、南米への演奏旅行も行なった。アルベニスやグラナドスなどの作品、又カタルニャ地方の民謡を各編曲し、優れた才能を示した。1937年、惜しまれつつこの世を去った。リヨベートのレコードが残っていると言われる。

東 和 貿 易

那覇市下泉町2の44
(市外バスセンター入口)

TEL. 33-2622

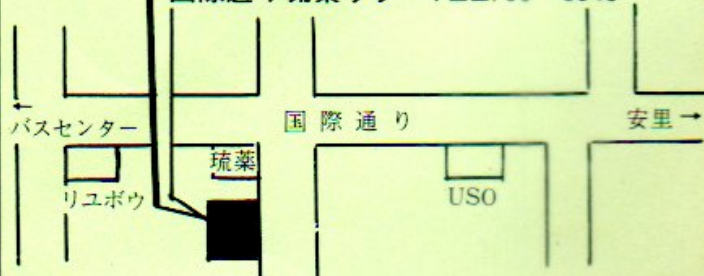
新開店!!

ギター演奏
6時～12時

喫茶

アンダルシア

国際通り琉薬ウラ TEL. 55-3348



インカ幻想曲 サビカス・ニーニョ (1912～)

1912年、スペインにジプシーの子として生まれる。10才にして神童といわれ、スペインのマドリッドでデビューした。1937年にスペインをはなれ、メキシコに移住、以後、ニューヨークを中心に活躍している。演奏傾向は激しいなかにもロマンティックなムードにあふれている。

スペインセレナーデ

マラツの原作はピアノ独奏曲で「スペインの印象」と言う副題があって単に「セレナーデ」と題されている。ホアキン・マラツは一般の愛好を受けるに十分なピアノ曲、その他を書いている。このセレナーデは彼の代表作の一つである演奏家の間で広く愛好されている。タルレガの編曲はギターの表現力と技巧上の可能性を知り尽した者のみがなし得る立派なものである。

タルレガの編曲したこの曲を広く現代に紹介したのはセゴビアで、彼の美事な演奏によってこの曲が現代ギター演奏の魅力あるレパートリーとなった。

泊 り 舟 宮 良 長 包 (明治16年～昭和14年)

明治16年、石垣市に生れる。沖縄民謡を深く研究し、合唱、又はオーケストラに編曲し毎年音楽会を開催した。琉球の音階による作曲で多くの名曲(民謡を主題に)を残された「琉球の新民謡」を出版した時は山田耕筰氏の序文の筆をとる。故武井守成(ギタリスト)のマンドリン曲集を聞いて深く感動し、早速自作の中にうまく取入れたりした。沖縄文化史に残る大芸術家であると備瀬知範氏は語られている。

龍生派 いけばな教室

金曜日・午前10時～午後9時
土曜日・午後4時～午後9時
日曜日・午後6時～午後9時

所・バス停中の橋(仲地外科向い)

高橋アパート3階6号室

TEL. 55(0757)

